

# 最近の腹痛について

山田クリニック

山田 修司 先生

お腹が痛くなることは誰にでもあります。その多くは一時的なもので、少し様子を見ると消失して記憶にも残りません。しかし、私たちはまれに激しい腹痛に遭遇することがあります。その中でも緊急に手術が必要なものは「急性腹症」と言われています。昔は激しい腹痛のときは手遅れになるのが心配で、正しい診断がつかなくても緊急開腹をすることがありました。最近ではCTスキャンで正しい診断をつけることが可能になったため、むやみに緊急開腹を行うことは少なくなりましたが、中には一刻を争う疾患がまれにあります。それは大腸穿孔性腹膜炎、腸捻転、嵌頓鼠径ヘルニアなどです。突然大腸に穴があく大腸穿孔は発症して3時間以内に手術しないと細菌が全身に回ってしまう敗血症になって死亡率が高くなります。

そのほかの開腹が必要な疾患は胃穿孔性腹膜炎、急性虫垂炎、卵巣出血、卵巣のう腫頸捻転などです。胃穿孔は最近では軽症のものは手術せずに治療ができるようになりました。虫垂炎も昔のように右下腹部痛イコール「盲腸」といってすぐ手術した時代は過ぎ、CTスキャンによる診断と進歩した抗生剤による治療によって手術件数は減少しました。しかし、手術が必要な重症虫垂炎は手術が難しく10年以上経験のある外科医でも四苦八苦してしまいます。かつて若い外科医の登竜門であった簡単な虫垂切除はほとんどなくなりました。

そのほか激しい腹痛を起こす疾患は胆石発作、膵炎、尿管結石などで、血液検査やCTスキャンですぐ診断と治療が可能です。

以上、緊急性のある腹痛について述べてきました。最近手術が必要な腹痛症は少なくなってきましたが、胃がん、大腸がん、膵がんなどが増加していることから激しい腹痛ではなくても気になる腹痛を感じたなら医療機関で受診し、腹部の精査をしてもらうことが大切と思われます。